

# 辰口の産業遺産に光

## 天狗壁の石切り場、廃トンネル

能美市辰口地区の住民有志が「能美の里山ジオの会」を結成し、地元で盛んだった石材産業を地域遺産として語り継ぐ活動に励んでいる。石切り場だった「天狗壁」や石材を運搬した旧北陸鉄道能美線（能美電）の廃トンネルなどふるさとの産業を支えた遺構に光を当て、集落の建築資材として根付く石文化や往時の歴史をたどりながら、具体的な活用策を探る活動を推進する。

### 有志が里山ジオの会



能美の石文化について調査・研究に取り組む中村さん  
——能美市岩内町

見学会など計画

メンバーは3月には岩内町と三ツ屋町の集落で玄関や塀、蔵などへの石材の使われかたやデザイン、規格を調査する。天狗壁などの見学会も予定し、市民とともに効果的な活用策を考える。

九谷焼の素材として盛んに採掘された陶石や瓦の素材となる粘土、手取川がもたらす自然の恵みをテーマに魅力を深掘りする活動のほか、能美の東部地区振興会の7町会による「ななやごプロジェクト」と活動の情報共有も視野に入れる。

里山の会事務局長の中村均司さん(73)は「住民の暮らしを支えた石文化の歴史やルーツを見詰め直し、現代に合わせた地域づくりにつなげられるよう、息の長い活動に努める」と話した。

## 地域資源 学んで発信

白山市鶴来地区と接する岩本町や灯台笹町、大口町周辺などでは、家屋の基礎石など建築用に加工しやすい凝灰岩が豊富に産出され、明治から昭和期にかけて石材業が盛んだった。天狗壁と呼ばれる岩壁から切り出された石材は、大正時代に開通した能美電が

「天狗山トンネル」を通り、県内外に運ばれた。能美電は1980(昭和55)年に廃線となり、石切り場跡周辺は現在では雑草が生い茂り、地元でも在りし姿を知る人は少なくなった。貴重な産業遺産の魅力を風化させず、価値を再発掘して

次代に語り継ごうと、地元の設計士や郷土史愛好家、石材業者ら15人が昨年4月に里山の会を結成。27日には辰口図書館で講演会を開き、金大環日本海域環境研究センターの塚脇真二教授が市民ら92人を前に、能美の地質や岩石の成り立ちについて解説